

業務及び財産の状況に関する説明書

【2023年3月期】

この説明書は、金融商品取引法第46条の4の規定に基づき、全ての営業所若しくは事務所に備え置いて公衆の縦覧に供するため、又はインターネット等で公表するために作成したものです。

安藤証券株式会社

I. 当社の概況及び組織に関する事項

1. 商号

安藤証券株式会社
(英文商号) (Ando Securities Co., Ltd.)

2. 登録年月日 (登録番号)

平成19年 9月 30日 (東海財務局長 (金商) 第1号)

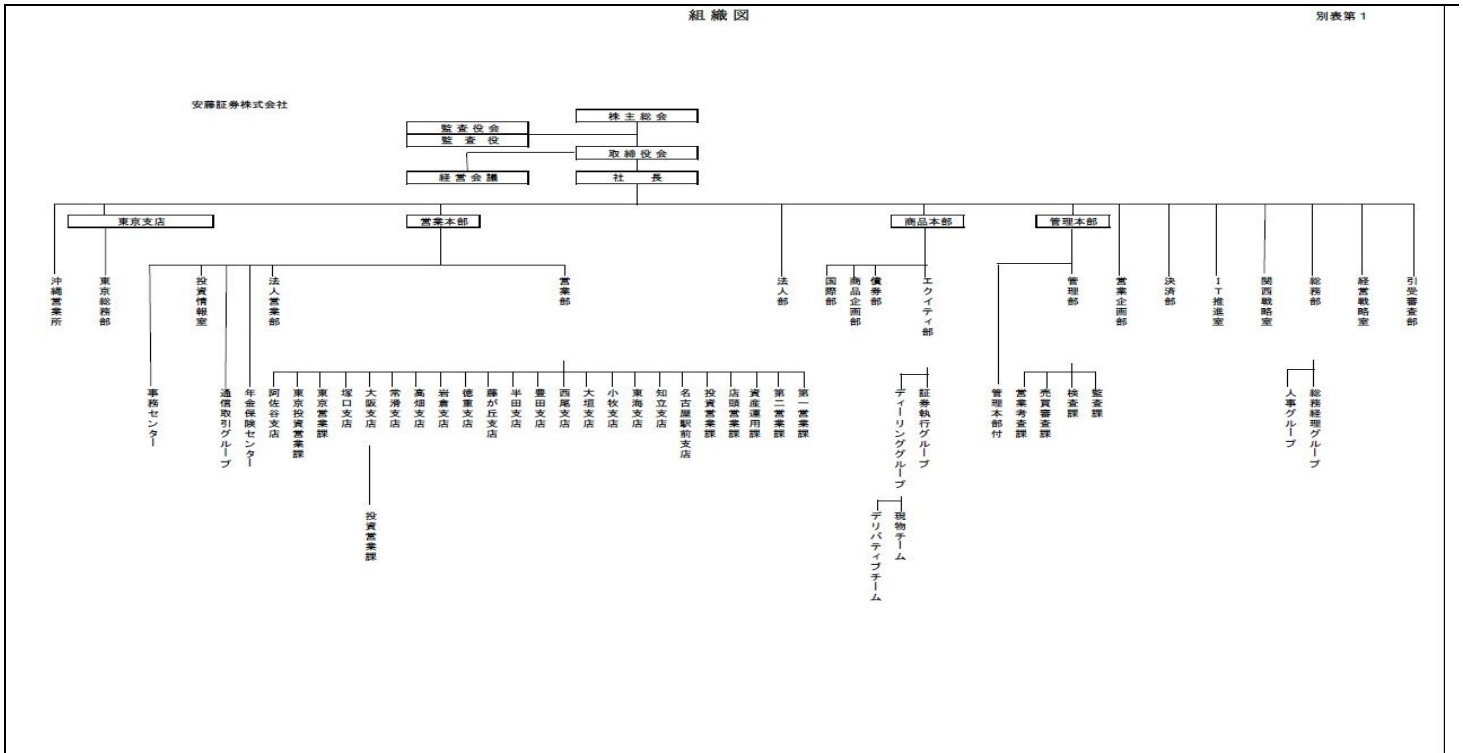
3. 沿革及び経営の組織

(1) 会社の沿革

年 月	沿 革
明治41年 3月	安藤商店を創業
昭和19年 4月	安藤証券株式会社を設立
	本店を東京、支店を名古屋に設置
昭和23年 1月	渡部証券を合併し大阪支店を設置
昭和28年10月	本店を名古屋に移し東京を支店に変更
昭和33年 8月	大野営業所を設置(S60.7 大野支店に昇格)
昭和33年11月	尾張横須賀営業所を設置
昭和34年 4月	知立営業所を設置(S59.10 知立支店に昇格)
昭和34年 5月	阿佐谷営業所を設置(S62.9 阿佐谷支店に昇格)
昭和36年 7月	小牧営業所を設置(S60.7 小牧支店に昇格)
昭和37年10月	名古屋駅前営業所を設置(S59.10 名古屋駅前支店に昇格)
昭和52年12月	西尾営業所を設置(S60.7 西尾支店に昇格)
昭和54年 7月	大垣営業所を設置(H2.3 大垣支店に昇格)
昭和59年10月	尾張横須賀営業所を東海支店に変更
昭和60年 9月	豊田支店を設置
昭和61年 6月	半田支店を設置
昭和62年 3月	藤が丘営業所を設置(H1.7 藤が丘支店に昇格)
昭和62年 8月	塚口営業所を設置(H1.10 塚口支店に昇格)
昭和62年 9月	野並営業所を設置(H1.7 野並支店に昇格)
昭和63年 4月	岩倉営業所を設置(H1.7 岩倉支店に昇格)
昭和63年 5月	高畑営業所を設置(H1.7 高畑支店に昇格)
平成 2年 8月	常滑支店を設置
平成14年 3月	大野支店を常滑支店に統合
平成15年 2月	東京支店営業部を設置
平成15年11月	大阪支店を移転
平成16年10月	東京支店を移転 (東京支店を東京本部へ名称変更) (東京支店営業部を東京支店へ名称変更)
平成19年 5月	塚口支店を移転
平成20年 9月	阿佐谷支店を移転
平成20年12月	豊田支店を移転
平成21年 9月	沖縄営業所を設置
平成22年 5月	野並支店を移転 (野並支店を徳重支店へ名称変更)
平成24年 3月	名古屋駅前支店を移転
平成25年12月	大阪支店を移転
平成28年 1月	知立支店を移転
平成28年 2月	名古屋駅前支店を移転
平成28年 6月	西尾支店仮店舗へ移転

平成29年 4月	西尾支店仮店舗から移転
平成29年 11月	徳重支店土地の名称及び地番変更
平成31年 2月	知立支店仮店舗から移転
平成31年 4月	名古屋駅前支店を移転
令和元年 5月	東京本部 14階から 12階へ移動

(2) 経営の組織
「組織図」に記載のとおり



4. 株式の保有数の上位 10 位までの株主の氏名又は名称並びにその株式の保有数及び総株主等の議決権に占める当該株式に係る議決権の数の割合

氏名又は名称	保有株式数	割合
	株	%
1. 大和興業株式会社	12,111,895	85.30
2. 渡部 鉄子	197,418	1.38
3. 安藤 輝良	133,000	0.93
4. 安藤 敏行	127,616	0.89
5. 株式会社 三菱UFJ銀行	120,000	0.84
6. 安藤 健造	92,288	0.64
7. 高橋 宗孝	88,248	0.61
8. 高橋 伸成	88,248	0.61
9. 高橋 明弘	88,248	0.61
10. 飯沼 輝明	85,824	0.59
その他 (38名)	1,071,878	7.60
計 48名	14,204,663	100.00

(注) 上記株主の状況には、自己名義株式は含まれておりません。
割合は、小数点3桁以下を切り捨てて記載しております。

5. 役員の氏名又は名称

役職名	氏名又は名称	代表権の有無	常勤・非常勤の別
取締役社長	安藤 敏行	有	常勤
常務取締役	北原 正義	無	常勤
常務取締役	飯田 均	無	常勤
取締役	金井 俊明	無	常勤
取締役	小谷 克巳	無	常勤
取締役	江原 則彰	無	常勤
監査役	牧田 三彦	無	常勤
監査役	三浦 隆	無	非常勤
監査役	大井 正隆	無	非常勤

6. 政令で定める使用人の氏名

- (1) 金融商品取引業に関し、法令等（法令、法令に基づく行政官庁の処分又は定款その他の規則をいう。）を遵守させるための指導に関する業務を統括する者（部長、次長、課長その他いかなる名称を有する者であるかを問わず、当該業務を統括する者の権限を代行し得る地位にある者を含む。）の氏名

氏 名	役 職 名
小谷 克巳	取締役管理本部長

7. 業務の種別

業 務 の 種 別
① 金融商品取引法第28条第1項第1号に掲げる行為に係る業務
② 金融商品取引法第28条第1項第2号に掲げる行為に係る業務
③ 金融商品取引法第28条第1項第3号ロに掲げる行為に係る業務
④ 金融商品取引法第28条第1項第3号ハに掲げる行為に係る業務
⑤ 有価証券等管理業務

金融商品取引業付随業務

業 務 の 種 類
① 有価証券の貸借業務
② 信用取引に付随する金銭の貸付業務
③ 保護預り有価証券担保貸付業務
④ 有価証券に関する顧客の代理業務
⑤ 受益証券に係る収益金、償還金又は解約金の支払いに係る代理業務
⑥ 投資証券等に係る金銭の分配、払戻金若しくは残余財産の分配又は利息若しくは償還金の支払に係る代理業務
⑦ 累積投資契約の締結業務
⑧ 有価証券に関連する情報の提供又は助言業務
⑨ 他の金融商品取引業者等の業務の代理

- ⑩ 他の事業者の譲渡、合併、会社の分割、株式交換若しくは株式移転に関する相談に応じ、又はこれらに関し仲介を行うこと
- ⑪ 他の事業者の経営に関する相談に応じること
- ⑫ 通貨その他デリバティブ取引（有価証券関連デリバティブ取引を除く）に関連する資産として政令に定めるものの売買又はその媒介、取り次ぎ若しくは代理
- ⑬ 譲渡性預金その他金銭債権（有価証券に該当するものを除く）の売買又はその媒介、取り次ぎ若しくは代理

8. 本店その他の営業所又は事務所（外国法人にあっては、本店及び国内における主たる営業所又は事務所その他の営業所又は事務所）の名称及び所在地

名 称	所 在 地
本店	〒 460-8619 名古屋市中区錦3丁目23-21
名古屋駅前支店	名古屋市中村区名駅南1-17-29 (広小路ESビル3階)
知立支店	知立市栄1丁目6番地 (エキタス知立107)
東海支店	東海市横須賀町4の割29
小牧支店	小牧市中央1丁目181
大垣支店	大垣市東外側町2丁目8
西尾支店	西尾市本町1-3
豊田支店	豊田市十塚町4丁目40
半田支店	半田市出口町1丁目130-1
藤が丘支店	名古屋市名東区明が丘113
徳重支店	名古屋市緑区元徳重1-401 ユメリア徳重2階
岩倉支店	岩倉市栄町1丁目117
高畑支店	名古屋市中川区高畑1丁目241
常滑支店	常滑市鯉江本町5丁目160
東京本部	東京都港区赤坂1丁目12番32号 アーク森ビル12階
東京支店	東京都中央区日本橋兜町10-3
阿佐谷支店	東京都杉並区阿佐谷南3丁目1-23
大阪支店	大阪府中央区北浜1-8-16 大阪証券取引所ビル10階
塚口支店	尼崎市塚口町1丁目15-13
沖縄営業所	沖縄県名護市字豊原181番地 みらい3号館2階

9. 他に行っている事業の種類

- ① 金地金の売買又はその媒介、取次ぎ若しくは代理に係る業務
- ② 保険業法第2条第26項に規定する保険募集に係る業務
- ③ 自ら所有する不動産の賃貸
- ④ 他の事業者の業務に関する広告又は宣伝を行う業務
- ⑤ 匿名組合契約の媒介等に係る業務
- ⑥ 当社の顧客に対し他の事業者の斡旋又は紹介を行う業務

10. 苦情処理及び紛争解決の体制

金融商品取引契約（金融商品取引法第34条第1項に規定する金融商品取引契約をいう。）の締結及びこれに付随する業務に関する苦情処理等は、各営業単位の所属長又は所属長が指名する者において受け付ける。また、業務委託している業務に関する苦情等については、業務委託責任部署において委託先から連絡を受け

る。苦情等の申出を受けた場合、遅滞なくその概要を営業部長（紛争にあつては管理部長）に報告し速やかに各営業単位の所属長等と協力して苦情・紛争の解決に努め適切な処置を講じる。

また、金商法上の業務に関する苦情等の解決については、社内措置を講じるほか金商法第37条の7第1項第1号ロに規定する苦情処理措置及び紛争解決措置として、特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センターに業務委託を利用する措置を講じることとする。

手続き実施基本契約を締結している指定紛争解決機関

特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

11. 加入する金融商品取引業協会及び対象事業者となる認定投資者保護団体の名称

日本証券業協会

12. 会員又は取引参加者となる金融商品取引所、外国金融商品取引所の名称又は商号

(株) 東京証券取引所
(株) 大阪取引所
(株) 名古屋証券取引所
シンガポール証券取引所

13. 加入する投資者保護基金の名称

日本投資者保護基金

II. 業務の状況に関する事項

1. 当期の業務の概要

当事業年度におけるわが国経済は、オミクロン株によるコロナ感染拡大、ロシアのウクライナへ軍事侵攻の長期化、国際商品相場の高騰、上海ロックダウン、欧米でのインフレ加速と景気悪化などにより、夏の参議院選挙で与党が圧勝したにも関わらず、追い風の欠いた展開となりました。また、秋ごろまでの急速な円安の動きは、金利差やインフレ格差で説明できる以上に下落しており、大きな構造変化を感じる動きとなりました。急激な円安の動きは、輸入物価の上昇をもたらした一方、大型の半導体工場などの国内への海外からの投資など、製造業の国内回帰の動きも見られました。年末には日銀の長短金利操作の一部変更が行われ、年明け2月には新しい日銀総裁の人事が決まるなど、新しいステージを睨んだ展開となっています。

海外においては、FRBが3月から利上げを開始し、6月からは1回の利上げ幅を75bpと大幅なものとして、11月まで4回連続大幅利上げを継続しました。その後は、インフレ指標の改善傾向と、金融機関の破綻等もあり、25bpに利上げ幅を縮小しました。FRBの利上げが後手に回ったことは、否定しようもなく、インフレ退治と金融問題への対処等、難しいかじ取りとなっています。一方、中国においては、ゼロコロナ政策の継続による上海ロックダウンなどの混乱を経て、11月からは一気にアフターコロナへ政策変更を行いました。米中間の対立も増えてきて、より安全保障を意識したサプライチェーンの再構築の動きも進みました。新型コロナ対策等で大量のお金が世の中に供給されたことや二酸化炭素削減等の環境コストや安全保障面等々の要因でインフレ素地のあるなか、ロシアによるウクライナ侵攻等の影響で、国際商品相場の高騰を招きました。

かかる経済情勢を背景に、日経平均株価は、期初、27,624円11銭で始まり、与党の参議院選大勝等背景に、8月17日に29,222円77銭の期中高値をつけました。一方、米国の大幅な利上げ加速等理由に6月20日に期中安値の25,520円23銭をつけて、期末終値は、28,041円48銭と、ほぼ前年と同じ水準で引けました。

このような一般情勢の下で、当社は、お客さまにマーケット環境の変化を意識したポートフォリオの構築を目指して、株式営業の強化や、他社商品とは顕著な差別化を図った投資信託及び外貨建債券を含めた総合的な営業活動をしてまいりました。また、当社は、社会貢献活動をより発展的に実践するために、11月中旬に、3年ぶりとなるITFワールドテニスツアー「安藤証券オープン 2022」を、有明テニスの森公園インドアコートで開催致しました。

当社の当期業績は、営業収益面においては、受入手数料は1,964百万円（前期比△6.2%）と減収、株式トレーディング益は、マイナス56百万円で（前期比△158百万円）減収となりました。外債の顧客販売並びにポジションを管理しております債券トレーディング益は、2,091百万円（前期比+89.0%）と増収しました。金融収益につきましては、875百万円（前期比△25.1%）と減収になりました。

これらの結果、当事業年度の実績は、経常利益は926百万円（前期比+62.4%）、当期純利益は、614百万円（前期比+71.7%）と、それぞれ増益となりました。

2. 業務の状況を示す指標

(1) 経営成績等の推移

(単位：百万円)

	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
資本金	2,280	2,280	2,280
発行済株式総数	15,180千株	15,180千株	15,180千株
営業収益	4,330	4,475	4,875
受入手数料	2,123	2,096	1,964
(委託手数料)	1,575	1,445	1,362
(引受け・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の手数料)	-	2	3
(募集・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の取扱い手数料)	132	177	165
(その他の受入手数料)	416	470	432
(口座料)	36	37	32
(移管手数料)	4	3	2
(生命保険代理店手数料)	0	0	1
トレーディング損益	1,291	1,208	2,034
(株券等)	395	102	△56
(債券等)	897	1,106	2,091
(その他)	0	0	△0
純営業収益	4,271	4,428	4,824
経常損益	382	570	926
当期純損益	337	357	614

(2) 有価証券引受・売買等の状況

① 株券の売買高の推移

(単位：百万円)

	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
自 己	(0) 437,814	(0) 507,475	(19) 266,403
委 託	(215) 343,095	(190) 316,465	(346) 298,452
計	(215) 780,909	(190) 823,940	(365) 564,855

() 内書は、外国有価証券

② 有価証券の引受け及び売出し並びに特定投資家向け売付け勧誘等並びに有価証券の募集・売出し及び私募の取扱い並びに特定投資家向け売付け勧誘等の取扱いの状況

(単位：千株、百万円)

区分	引受高	売出高	特定投資家向け売付け勧誘等の総額	募集の取扱高	売出しの取扱高	私募の取扱高	特定投資家向け売付け勧誘等の取扱高	
2021年3月期	株券	(2千株) 3	(0千株) 0	(0千株) 0	(2千株) 3	(0千株) 0	(0千株) 0	(0千株) 0
	国債証券	0		0	7		0	0
	地方債証券	1,230		0	30		0	0
	特殊債券	0	0	0	0	0	0	0
	社債券	0	《8,587》 8,587	0	0	0	0	0
	受益証券				《1,042》 99,083	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0
	合計	(2千株) 1,233	(0千株) 8,587	(0千株) 0	(2千株) 99,123	(0千株) 0	(0千株) 0	(0千株) 0
2022年3月期	株券	(29千株) 112	(0千株) 0	(0千株) 0	(29千株) 112	(0千株) 0	(0千株) 0	(0千株) 0
	国債証券	0		0	7		0	0
	地方債証券	1,230		0	30		0	0
	特殊債券	0	0	0	0	0	0	0
	社債券	100	《8,199》 8,199	0	100	0	0	0
	受益証券				《628》 93,556	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0
	合計	(29千株) 1,442	(0千株) 8,199	(0千株) 0	(29千株) 93,805	(0千株) 0	(0千株) 0	(0千株) 0
2023年3月期	株券	(5千株) 8	(0千株) 0	(0千株) 0	(5千株) 8	(0千株) 0	(0千株) 0	(0千株) 0
	国債証券	0		0	11		0	0
	地方債証券	1,230		0	30		0	0
	特殊債券	0	0	0	0	0	0	0
	社債券	800	《8,910》 8,910	0	800	0	0	0
	受益証券				《489》 93,360	0	0	0

区 分		引受高	売出高	特定投資 家向け売 付け勧誘 等の総額	募集の 取扱高	売 出 し の 取 扱 高	私募の 取扱高	特定投資家 向け売付け 勧誘等の取 扱高
	その他	0	0	0	0	0	0	0
	合 計	(5千株) 2,038	(0千株) 8,910	(0千株) 0	(5千株) 94,209	(0千株) 0	(0千株) 0	(0千株) 0

《 》内書は外国有価証券

(3) その他業務の状況

① 金地金の売買又はその媒介、取次ぎ若しくは代理に係る業務

(単位：Kg, 百万円)

	販売		買取	
	数量	金額	数量	金額
2021年3月期	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
2022年3月期	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
2023年3月期	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

()内延べ取引

② 譲渡性預金の預金証書の売買又はその媒介、取次ぎ若しくは代理に係る業務

区分	2021年3月期		2022年3月期		2023年3月期	
	件数(口)	金額(百万円)	件数(口)	金額(百万円)	件数(口)	金額(百万円)
買入	0	0	0	0	0	0
売却	0	0	0	0	0	0
期末残高	0	0	0	0	0	0
売買の媒介等	0	0	0	0	0	0
受入手数料	0	0	0	0	0	0
売買損益	0	0	0	0	0	0
その他収益	0	0	0	0	0	0

③ 円建銀行引受手形の売買又はその媒介、取次ぎ若しくは代理に係る業務

区分	2021年3月期		2022年3月期		2023年3月期	
	件数(口)	金額(百万円)	件数(口)	金額(百万円)	件数(口)	金額(百万円)
買入	0	0	0	0	0	0
売却	0	0	0	0	0	0
期末残高	0	0	0	0	0	0
売買の媒介等	0	0	0	0	0	0

④ 保険業法第2条第22項に規定する保険募集

	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
	契約件数	契約件数	契約件数
SOMPOひまわり生命	10件	10件	17件
ソニー生命	25件	30件	34件
メットライフ生命(注)	41件	32件	28件

※生命保険・医療保険・年金保険等、当社が取り扱い可能な保険商品契約件数

(注) メットライフ生命の契約件数は、個人年金保険のみの件数です。

SOMPOひまわり生命は、2018年4月より募集取り扱い開始

ソニー生命は、2018年10月より募集取り扱い開始

(4) 自己資本規制比率の状況

(単位：%、百万円)

	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
自己資本規制比率(A/B×100)	329.4%	331.3%	340.1%
固定化されていない自己資本(A)	22,594	21,516	20,499
リスク相当額(B)	6,858	6,494	6,026
市場リスク相当額	5,448	5,068	4,691
取引先リスク相当額	468	452	392
基礎的リスク相当額	941	973	942
暗号資産等による控除額	-	-	-

(5) 使用人の総数及び外務員の総数

(単位：名)

	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
使用人	214	214	217
(うち証券外務員)	210	208	207

Ⅲ. 財産の状況に関する事項

1. 経理の状況

(1) 貸借対照表

(単位：百万円)

資 産 の 部			負 債 の 部		
科 目	2022.3	2023.3	科 目	2022.3	2023.3
流動資産			流動負債		
現金・預金	9,653	6,642	トレーディング商品	6	32
預託金	9,501	8,434	約定見返勘定	741	-
トレーディング商品	3,754	3,683	信用取引負債	2,017	1,998
株券	34	64	信用取引借入金	1,807	1,753
債券	2,218	2,774	信用取引貸証券受入金	209	244
受益	970	828	預り金	8,545	6,988
その他	531	16	受入保証金	1,792	2,143
約定見返勘定	-	49	短期借入金	1,500	1,200
信用取引資産	2,850	3,095	未払費用	86	86
信用取引貸付金	2,713	2,908	未払法人税等	74	218
信用取引借証券担保金	137	186	賞与引当金	74	87
立替金	0	1	役員賞与引当金	177	247
短期差入保証金	1,901	3,055	その他の流動負債	465	9
短期貸付金	0	0	流動負債計	15,480	13,011
未収収益	86	88	固定負債		
その他の流動資産	1,523	1,274	長期借入金	-	-
貸倒引当金	△0	△0	繰延税金負債	3,812	3,143
流動資産計	29,271	26,323	退職給付引当金	-	-
固定資産			その他の固定負債	3,074	3,043
有形固定資産	1,858	2,530	固定負債計	6,887	6,186
建物	853	901	引当金		
器具・備品	87	85	金融商品取引責任準備金	27	27
土地	760	1,335	引当金計	27	27
建設仮勘定	44	101	負債合計	22,395	19,225
その他	112	107	純資産の部		
無形固定資産	51	69	株主資本	21,391	21,790
電話加入権その他	51	69	資本金	2,280	2,280
投資その他の資産	22,427	20,386	資本剰余金	-	-
投資有価証券	21,554	19,498	資本準備金	-	-
関係会社株式	206	206	利益剰余金	19,462	19,904
出資金	1	1	利益準備金	375	375
長期貸付金	-	-	任意積立金	260	260
長期差入保証金	312	311	別途積立金	260	260
前払年金費用	138	148	繰越利益剰余金	18,827	19,269
長期前払費用	-	-	自己株式	△350	△394
その他の投資等	228	234	評価・換算差額金	9,822	8,294
貸倒引当金	△14	△14	その他有価証券評価差額金	9,822	8,294
固定資産計	24,338	22,987	新株引受権	-	-
繰延資産	-	-	新株予約権	-	-
			純資産合計	31,214	30,084
資産合計	53,610	49,310	負債・純資産合計	53,610	49,310

(2) 損益計算書

(単位：百万円)

科 目		2022. 3	2023. 3	
経常損益の部	営業損益の部	営業収益	4,475	4,875
		受入手数料	2,096	1,964
		金融収益	1,170	875
		トレーディング損益	1,208	2,034
		金融費用	46	51
	純営業収益	4,428	4,824	
	営業費用	3,905	3,942	
	販売費・一般管理費	3,905	3,942	
	営業損益	522	882	
	営業外損益の部	営業外収益	50	45
	営業外費用	2	0	
	経常損益	570	926	
特別損益の部	特別利益	臨時利益	-	-
		投資有価証券売却益	71	53
		金融商品取引責任準備金戻入	0	0
		特別損失	5	2
	投資有価証券評価減	0	-	
	臨時損失	5	2	
	投資有価証券売却損	0	0	
税引前当期純損益		635	977	
法人税・住民税及び事業税		232	359	
法人税等調整額		45	4	
当期純損益		357	614	

(3) 株主資本等変動計算書

(自 2021年4月1日から2022年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本						
	資本金	資 本 剰 余 金			利 益 剰 余 金		
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金	
					別途 積立金	繰越 利益剰余金	
2021年4月1日残高	2,280	-	-	-	375	260	18,612
事業年度中の変動額							
剰余金の配当							△143
利益剰余金間の振替額							
当期純利益							357
資本剰余金の振替額							
自己株式取得							
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額（純額）							
事業年度中の変動額合計							214
2022年3月31日残高	2,280	-	-	-	375	260	18,827

	株 主 資 本			評 価 ・ 換 算 差 額 等		株 式 引 受 権	株 式 予 約 権	純資産合計
	利益剰余金 合計	自己株式	株主資本 合計	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計			
2021年4月1日残高	19,247	△350	21,177	10,794	10,794	-	-	31,971
事業年度中の変動額								
剰余金の配当	△143		△143					△143
利益剰余金間の振替額								
当期純利益	357		357					357
資本剰余金の振替額								
自己株式取得								
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額（純額）				△971	△971			△971
事業年度中の変動額合計	214		214	△971	△971			△757
2022年3月31日残高	19,462	△350	21,391	9,822	9,822	-	-	31,214

(自 2022年4月1日から2023年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本						
	資本金	資 本 剰 余 金			利 益 剰 余 金		
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金	
					別途 積立金	繰越 利益剰余金	
2022年4月1日残高	2,280	-	-	-	375	260	18,827
事業年度中の変動額							
剰余金の配当							△171
利益剰余金間の振替額							
当期純利益							614
資本剰余金の振替額							
自己株式取得							
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額（純額）							
事業年度中の変動額合計							442
2023年3月31日残高	2,280	-	-	-	375	260	19,269

	株 主 資 本			評 価 ・ 換 算 差 額 等		株 式 引 受 権	株 式 予 約 権	純 資 産 合 計
	利益剰余金 合計	自己株式	株主資本 合計	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計			
2022年4月1日残高	19,462	△350	21,391	9,822	9,822	-	-	31,214
事業年度中の変動額								
剰余金の配当	△171		△171					△171
利益剰余金間の振替額								
当期純利益	614		614					614
資本剰余金の振替額								
自己株式取得		△43	△43					△43
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額（純額）				△1,528	△1,528			△1,528
事業年度中の変動額合計	442	△43	398	△1,528	△1,528			△1,130
2023年3月31日残高	19,904	△394	21,790	8,294	8,294	-	-	30,084

2. 借入金の主要な借入先及び借入金額

(単位：百万円)

(2022年3月31日現在)

借入先の氏名又は名称	借入金額
三菱UFJ銀行	500
三井住友銀行	100
名古屋銀行	200
中京銀行	500
愛知銀行	200

(2023年3月31日現在)

借入先の氏名又は名称	借入金額
三菱UFJ銀行	500
三井住友銀行	100
名古屋銀行	200
中京銀行	100
愛知銀行	200
三十三銀行	100

3. 保有する有価証券（トレーディング商品に属するものとして経理された有価証券を除く。）の取得価額、時価及び評価損益

（単位：百万円）

	2022年3月期			2023年3月期		
	取得価額	時 価	評価損益	取得価額	時 価	評価損益
1. 流動資産						
(1) 株券	0	0	0	0	0	0
(2) 債券	0	0	0	0	0	0
(3) その他	0	0	0	0	0	0
2. 固定資産						
(1) 株券	596	14,149	13,552	587	12,649	12,062
(2) 債券	1,084	1,479	394	1,084	1,516	432
(3) その他	5,996	6,202	206	6,158	5,615	△543
合 計	7,676	21,830	14,154	7,830	19,782	11,951

4. デリバティブ取引（トレーディング商品に属するものとして経理された取引を除く。）の契約価額、時価及び評価損益

(1) 先物取引・オプション取引の状況

① 株式

（単位：百万円）

	2022年3月期			2023年3月期		
	契約価額	時 価	評価損益	契約価額	時 価	評価損益
1. 株価指数先物取引						
(1) 売建	0	0	0	0	0	0
(2) 買建	0	0	0	0	0	0
2. 株価指数オプション取引						
(1) 売建						
① コール	0	0	0	0	0	0
② プット	0	0	0	0	0	0
(2) 買建						
① コール	0	0	0	0	0	0
② プット	0	0	0	0	0	0

② 債券

(単位：百万円)

	2022年3月期			2023年3月期		
	契約価額	時 価	評価損益	契約価額	時 価	評価損益
1. 債券先物取引						
(1) 売建	0	0	0	0	0	0
(2) 買建	0	0	0	0	0	0
2. 債券オプション取引						
(1) 売建						
① コール	0	0	0	0	0	0
② プット	0	0	0	0	0	0
(2) 買建						
① コール	0	0	0	0	0	0
② プット	0	0	0	0	0	0

(2) 有価証券店頭デリバティブ取引の状況

(単位：百万円)

	2022年3月期			2023年3月期		
	契約価額	時 価	評価損益	契約価額	時 価	評価損益
1. 有価証券先渡取引						
(1) 売建	0	0	0	0	0	0
(2) 買建	0	0	0	0	0	0
2. 有価証券店頭指数等先渡取引						
(1) 売建	0	0	0	0	0	0
(2) 買建	0	0	0	0	0	0
3. 有価証券店頭オプション取引						
(1) 売建						
① コール	0	0	0	0	0	0
② プット	0	0	0	0	0	0
(2) 買建						
① コール	0	0	0	0	0	0
② プット	0	0	0	0	0	0
4. 有価証券店頭指数等スワップ取引	0	0	0	0	0	0

5. 財務諸表に関する会計監査人等による監査の有無

岐阜県本巣市下真桑 546 番地 3
臼井智浩公認会計士事務所
公認会計士 臼井智浩

愛知県小牧市中央 2 丁目 116 番地
公認会計士梅村圭輔事務所
公認会計士 梅村圭輔

IV. 管理の状況

1. 内部管理の状況の概要

(1) コンプライアンス体制

当社は、金融商品取引市場の仲介者として社会的使命を自覚するとともにコンプライアンスを経営の最も重要な課題のひとつと位置付け、取締役会及び経営会議では随時コンプライアンスの状況を報告しております。内部管理体制の整備につきましては、内部管理部門の組織として本店に管理本部を設置し、管理本部長を内部管理統括責任者とし、各部署に内部管理責任者を置きコンプライアンスの徹底と意識の向上に努めています。

○コンプライアンスプログラム

当社では営業部門に、日本証券業協会規則に基づく「営業責任者、内部管理責任者」を置き、営業活動や日々の業務が正しく行われているかをチェックしています。また、法令等の遵守に関する具体的な実施プログラムとして、部課店長を主催者とするコンプライアンス会議を毎月開催しています。部課店長はコンプライアンス会議の議題を部課店に持ち帰り、毎月の議題について討議し勉強会を行ない、その内容は管理本部に報告されます。さらに、随時、内部管理責任者のための内部管理責任者会議を行い、法令遵守に係る各種の指導等を行っています。

○コンプライアンスの周知

内部管理の強化を図るため、コンプライアンスマニュアルや内部管理責任者マニュアルを作成し、全役職員が常時閲覧出来る体制としています。

○売買管理

内部者取引の未然防止に係る管理及び株式等の価格形成に係る審査等を行い、不公正取引の排除を図ることに努めています。また「犯罪収益移転防止法」第9条に定められた疑わしい取引の届出を実行する場合の社内の取り扱いについて定め、組織的犯罪、資金洗浄（マネーロンダリング）、テロリズムへの資金供与に関与し、犯罪収益等の拡大に利用されることを防止するよう取り組んでいます。

(2) お客様からのご意見及び苦情に対する具体的な取扱い方法

部課店においてお客様のご意見及び苦情等の申し出を受けた場合の取扱いはIの10「苦情処理及び紛争解決の体制」に記載したとおりであります。またお申出の内容について、期間を設けてとりまとめ、事例集として社員が常時閲覧出来る体制としているほか、毎月、経営会議に報告し、業務改善に向けた取り組みに努めております。

(3) 内部監査体制

管理部が、法令等遵守及びリスク管理を含む内部管理態勢の適切性及び有効性を評価及び検証するとともに、業務の健全かつ適切な運営の確保を図ることを目的として、内部監査を行っています。

2. 分別管理の状況

(1) 金融商品取引法第 43 条の 2 の規定に基づく分別管理の状況

① 顧客分別金信託の状況

(単位：百万円)

項目	2022年3月31日現在の金額	2023年3月31日現在の金額
直近差替計算基準日の顧客分別金必要額	9,481	8,414
顧客分別金信託額	9,501	8,434
期末日現在の顧客分別金必要額	9,446	8,310

② 有価証券の分別管理の状況

イ 保護預り等有価証券

有価証券の種類		2022年3月31日現在		2023年3月31日現在	
		国内証券	外国証券	国内証券	外国証券
株券	株数	230,441千株	769千株	228,643千株	368千株
債券	額面金額	2,671百万円	119,464百万円	2,518百万円	134,309百万円
受益証券	口数	93,241百万口	963百万口	92,105百万口	84百万口
その他	額面金額	0	0	0	0

ロ 受入保証金代用有価証券

有価証券の種類		2022年3月31日現在	2023年3月31日現在
		数量	数量
株券	株数	6,575千株	6,643千株
債券	額面金額	0百万円	0百万円
受益証券	口数	415百万口	382百万口

③ 管理の状況

項目	管理区分場所	保管の管理状況
保護預り有価証券	日本電子計算、保振、証券会社、自社、日本銀行、銀行	委託・自己に区分し、個別に判別できるよう管理。 一部債券混蔵管理。 投信預託分は振替決済制度。 混蔵保管は帳簿管理。
代用有価証券	証金、保振、日本電子計算、取引所、日本銀行、銀行	委託・自己に区分し、個別に判別できるよう管理。 投信預託分振替決済制度 一部債券混蔵管理

商品有価証券	日本電子計算、証金、保振、取引所、日本銀行 銀行	銘柄別に管理。
投資有価証券	日本電子計算、保振証金、取引所、	銘柄別に管理。
借入有価証券	証金、借入銀行	銘柄別に管理。

V. 連結子会社等の状況に関する事項

1. 企業集団の構成 該当なし

2. 子会社等の商号又は名称、本店又は主たる事務所の所在地、資本金の額、事業の内容等

商号又は名称	本店所在地	資本金	事業内容	当社及び子会社の保有する議決権の数	子会社等の総株主権の議決権に占める当該議決権の割合
株式会社 美らヒルズ・マネジメント	沖縄県名護市字豊原181番地	10百万円	安藤証券の委託を受けて、有価証券の計算・整理、帳簿の記帳・整理等各種の事務処理を行う。	200口	100%
カレラアセットマネジメント株式会社	東京都港区赤坂1丁目12番32号	162百万円	投資信託委託業	400口	50.6%

以上